

第209回 令和8年4月13日（月）

「AIに替わる仕事」

AIに仕事が奪われると言われていますが、相変わらず就職戦線は売手市場で、企業は人材確保に必死です。もうしばらくは人間の仕事がなくなるような事態はなさそうな気がします。

ただしいくつかの仕事は10年後にはかなりAIが主力になると予測されています。大きいものは事務系の仕事で、デスクワークは大半がAI主流になりそうです。以前は作曲や作家などクリエイティブな仕事はAIには向かないとされていましたが、そうではないことは明らかです。作家がプロットを創れば後はAIが執筆する時代がすぐそこに来ています。（すでにそうなっている本もあるのではないかと思います。）

日本は人口が急減しているのでAIによる人材の補填はありがたい面もあります。AIの設備投資はありますが、一度導入すれば人件費はほとんどかからないことになります。その分いろいろなものが安価で利用できるかもしれません。

公共サービスがAIによって人件費の削減ができると大幅な減税が可能になることも考えられます。稼いだお金のほとんどが手元に残る、ベーシックインカムに近い形になれば仕事が減っても人間は生きていくことができるでしょう。

課題は仕事がなくなった人間がどのようなモチベーションで生きていくのかということです。旅行や買い物など物欲があれば仕事で稼ごうとするでしょうが、生きることだけで構わないという人は就労しないことを選ぶかもしれません。

すでに若い人の中にはフリーターやニート、家から出ない人なども出てきています。働かなくても生きていけるのならそのような人間はますます増えていくでしょう。高齢者を狙うような犯罪も減らないことが予想されます。

AIが人類を楽にするのか、滅亡に追い込むのかはわかりません。ただ人間は一度楽をしてしまおうとなかなか元に戻れない習性があります。いまAIとの付き合い方をはっきり決めておく必要があると思っています。

2～3年前までAIのつくった文書やイラストはどこか変なところがあったし、AIだと見抜くことが簡単でした。こんなに短い時間でフェイク動画が偽物か本物かわからなくなるとは思っていませんでした。

これからどうなるのかわかりませんが、もうすぐポイントオブノーリターンに到達することは間違いないと思います。